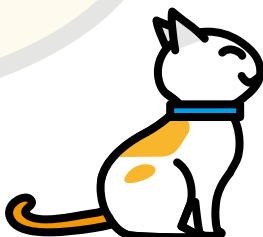


震災からペットを守る 「か・き・く・け・こ」

※ 原題は「震災から猫を守る「か・き・く・け・こ」5か条」ですが、犬の飼い主の方にも参考にしていただくため、「ペットを守る」に修正するとともに、内容を加筆しています。

2016年（平成28年）4月に
起った熊本地震の際に、ペット同伴の
被災者を受け入れるなど、さまざまな活動を行なった、熊本市内の開業獣医師の先生が
提唱している
被災に備えた5か条です。



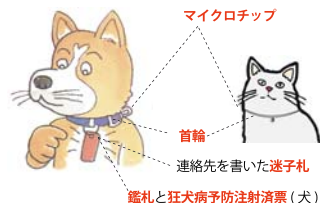
埼玉県のマスコット コバトン

か：飼い主のマナー

- ➔ 避難した時は、犬や猫が苦手な人とも一緒になります。
飼い主として「他人に配慮する」という最低限のマナーを守ることが大切です。

き：キャリーケース

- ➔ 猫はキャリーケースに入れて避難することが原則です。ふだんから慣れさせておきましょう。
- ※ 犬の場合はケージ（おり）の用意と嫌がらずに入る習慣をつけおきましょう。
- ※ 名札・マイクロチップ・鑑札（犬の場合）など、万一、離れ離れになった時に、飼い主を特定できるものを装着しておくことも大切です。



く：薬・ご飯

- ➔ 薬、水や餌（保存のきくもの）、飼育用品など、まず、最初の3日間を過ごせる物を用意しましょう。
- ※ 被災後の3日間は、行政の支援や救援物資が届きにくいとされています。
まずは「最低3日分。余裕をもって7日分を用意しておく」のが理想的です。



詳しくは裏面で…

け：健康管理

- ➔ 被災した時は病気や感染症にかかりやすくなります。
ふだんからワクチンの接種や、ノミやダニなどの予防をしておきましょう。
- ※ 「ペット動物のための防災手帳／埼玉県版」などを使って、写真や記録（健康や病気の記録）などを把握しやすくしておきましょう。（犬の場合は「狂犬病予防注射」も忘れずに…）



こ：行動・しつけ

- ➔ トイレのしつけ、人込みや他の動物を怖がらないように、ふだんから慣れさせておくことなどは、とても大切です。
- ※ 犬の場合は「おすわり」「待て」「静かに」などのしつけや、首輪や引き綱（リード）を嫌がらずに付ける習慣などをつけておきましょう。



日ごろからの心がけ

災害が起こったら、まずは、自分の安全確保を!!
飼い主が無事でないと、ペットを守れません。

避難が必要な場合は、できるだけペットと一緒に避難しましょう。

事前に確認しておきたいこと

- ☐ 住まいの安全
- ☐ ペットの飼育スペースの安全
- ☐ 避難場所と避難経路、避難の方法
- ☐ 家族間の連絡方法
- ☐ 避難の時に持って行く物
- ☐ ご近所との連携
- ☐ 家に動物しかいない時に被災したらどうするか

協力し合える仲間を作しましょう

ふだんから、飼っている動物について気軽に相談できる仲間はいませんか？

また、避難経路などを話し合えるご近所さんはいませんか？

いざという時に備えて、緊急時に動物を一時的に預かってもらえるような仲間をつくっておきましょう。



防災用品

犬



猫



- | | | |
|---|-----------------------------------|--|
| ☐ フード・水（7日分 ※） | ☐ 新聞紙・ゴミ袋 | ☐ 糞取り袋 |
| ☐ 食器 | ☐ ガムテープ | ☐ 猫砂（猫） |
| ☐ 健康や病気の記録（動物防災手帳など） | ☐ 写真 | ☐ キャリーケース（猫） |
| ☐ 常備薬 | ☐ （首輪・リード） | ☐ クレート・ケージなど（犬・猫） |
| ☐ ペットシート | ☐ おもちゃ | |

※ フードや水は7日分（支援物資の届くまでの目安の期間）、少なくとも3日分は確保しておきましょう。

同行避難のながれ

災害発生！

自分や家族の安全を確保してから、ペットを連れて避難所へ

避難所

受入れ可

受入れ不可

トラブルや問題の解決

動物アレルギーの人がいる

動物がケージに慣れていない

動物が予防接種を受けていない

他の動物や人に吠えてしまう（犬）

etc...

救援本部などによる動物の一時預かり所の利用

ペットの受け入れが可能な避難所への異動

ペットと同居するためのルールの取り決め

※ 一般（財）全国緊急災害時動物救援本部作成のリーフレット（2014.09）による